



るうてる



2025年
11月
No.935

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「イエス様は知っておられるから」

日本福音ルーテル広島教会・西条教会・松山教会牧師 立野泰博

「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いにあずかせるように定められたのです。」
(テサロニケの信徒への手紙 1:5-9)



伊藤 賢子
⑧あゆみ



「神様を信じたら良いことがあると思つたら、悪いことしかおこらない」と訴えてきた人がいます。確かに神様を信じることで良いことばかりがあるとは限りません。むしろ都合の悪いことばかりと思つてしまうかもしれません。

悪いことでも感謝して受け取ることができるか。どんなことにも感謝することができるか。

11月になると天に召された信仰の先輩たちが、キリスト者としての人生すべてに感謝しておられたことを思い出します。

この箇所も、神様は私たちが怒りに定めるのではなく、何とかしてイエス様の十字架によつて救うために働かれると告げています。それは人々の試練や苦しみをよく知つておられるからです。信仰の先輩たちは「どんなことにも感謝しない」といふ「自分にとって都合の良いことばかりは起こらないからです。むしろ、神様から与えられた本来の道を歩くため、悔い改めの道が与えられるのです。それは私たちが救いへと導くためです。」

「自分にとって都合の良いこと」を考えると、そこには自分しか見えていないのです。自分に都合が

「ありがとう」を残して神様の御許に召されていかれました。その「ありがとう」が今日もここに遺っています。

テサロニケの信徒への手紙一は、聖書の中でも最初に書かれた手紙です。教会はその時、迫害と試練のなかにありました。そのような中でパウロは感謝する「という言葉からこの手紙を書き始めています。また有名な言

葉「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(5:16-18a)という言葉で手紙を締めくくっています。試練や迫害の中にあつてもイエス様が共に居てくださることを証しするのです。

「礼拝に来ることができなくてよかった」、「皆さんにお会いできてよかった」、「この痛みでたくさん教えられてよかった」と言われるのです。

人生は考え方次第で恵みにも苦難にもなりま

「半分しか水がない」と言い、ある人は「半分も水が入っていない、ある人は「半分も水がない」と言います。また「半分は空である」という見方もあります。同じものでも見方が違います。私たちがどうせ見るなら信仰によつて受け取る、キリスト者として生きる見方をしたいです。試練

や失敗があつても、これは神様が何かを教えてください。ださるためと思ひ感謝できたらと願います。そのような見方によつて初めて神様の御心が分かるのでしよう。

パウロは「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いにあずかせるように定められたのです」と教えています。大きな試練や苦しみの時でも、イエス様は共に居てください。救いに導くために寄り添つておられます。「あなたの痛みを知っている」とイエス様は言われます。その御言葉に救われるのです。神様は私たちが救いに導くために、今日も十字架の上から声を掛けてくださっています。

教会の宣教が伸び悩む中でも、感謝して何か始める勇氣を持ちたいと思います。信仰の先輩たちから受け継いだ教会を未来に引き継ぐために、いまを感謝して。

「信仰にすっかり踏みどまつて、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じくする兄弟たちも、この世で同じ苦しみ

「人生はカーテンみたいなものだよ」と言つた人がいました。「どんなに丈夫な布でも緩みもなく、ずーと張つていたら少し何かが布にぶつたら簡単に裂けてしまふし、緩みつばなしではカーテンとしては役に立たなくなる。適度な緩みを持つてレールにつながつていれば安心ですよね。」って。あなたも私も緩んだり、止まったり、迷つても良いんです。帰るところがあるから。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたら、止まったり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。



「ゲッセマネのキリスト」(1890) ハイムリッヒ・ホフマン

ある時、信徒の方の手に包帯があるのを見てビックリしました。何があつたかをお聞きすると、寒い日に地面が凍つ

ある時、信徒の方の手に包帯があるのを見てビックリしました。何があつたかをお聞きすると、寒い日に地面が凍つ

ある時、信徒の方の手に包帯があるのを見てビックリしました。何があつたかをお聞きすると、寒い日に地面が凍つ

ある時、信徒の方の手に包帯があるのを見てビックリしました。何があつたかをお聞きすると、寒い日に地面が凍つ



リレーコラム

「全国の教会・施設から」③〇

日本福音ルーテル 日吉教会

秋吉亮

(日本福音ルーテル 日吉教会代議員)

日吉教会は、1957年に始まった川崎地区での開拓伝道を源流とし、1962年に横浜市港北区日吉の地に牧師館が建てられ、正式に発足しました。創立当初から、横浜教会をはじめとする近隣の教会との交わりに支えられながら歩んできました。

1968年には現在の教会敷地の東側半分を購入し、翌1969年には警宮の神学校の礼拝堂を移築して使用するという恵みにあずかりました。これにより、礼拝の場が整えられ、地域に根ざした宣教活動が本格化していき

ました。日吉教会へのアクセスは、日吉駅からバスに乗り終点から徒歩3分、日吉駅から歩くと20分かかり、自家用車での来会者



クリスマス礼拝の様子

合同役員会や合同礼拝を行っており、教会員同士の交わりも深まっています。日吉教会の信徒が横浜教会の礼拝に出席した



も少なくないのですが、教会としての駐車スペースはなく、また礼拝出席者も増え手狭になっていきました。そのような中で隣接する「青年の家」が活動を終え、2001年にその土地が与えられました。さらに礼拝堂の老朽化と耐震基準の未達に対して、2010年に建て替えるの検討が始まりました。7年の準備期間を経て、2017年に新しい礼拝堂が完成。現在は、広く、耐震性に優れた大堂で礼拝を行っています。昨年のクリスマス・イブ礼拝には、140名を超える方々が出席され、大きな祝福の時となりました。

2023年には河田優牧師を迎え、翌2024年4月からは横浜教会との兼牧体制となりました。ただ「兼牧」という言葉では不十分かもしれせん。むしろ、二つの教会が再び共に歩み始めたと言えよう。2023年より、年に三回〜四回の合同役員会や合同礼拝を行っており、教会員同士の交わりも深まっています。

「わたしの兄弟たち、自分には信仰を持っていてと言者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が彼を救うことができるといえるでしょうか。もし、兄弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食へ物にも



合同礼拝後お互いの教会の歴史を分かち合う

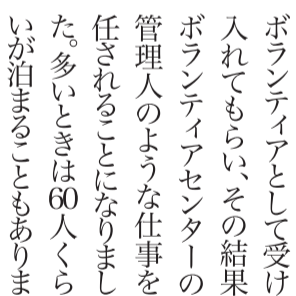
社会福祉法人慈愛園・慈愛園老人ホーム・慈愛園ケアハウス

潮谷一紀

(社会福祉法人慈愛園 慈愛園ケアハウス 生活相談員)

り、演奏に携わったりする一方で、横浜教会の信徒が日吉教会の礼拝に参加するなど、互いに支え合う関係が育まれています。2枚目の写真は、横浜教会との合同礼拝の後、それぞれの教会の歴史を紹介している場面です。互いの歩みを知り、感謝を分かち合うひとときでした。神様が、日本福音ルーテル教会全体に、進むべき道を示してくださいませように祈ります。

事欠いているとき、あなたがたのだけれど、彼らに『安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい』と言うだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょうか。信仰もこれと同じです。行いが伴わなければ、信仰はそれだけでは死んだものです。『ヤコブの手紙2:14〜17』



「わたしの兄弟たち、自分には信仰を持っていてと言者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が彼を救うことができるといえるでしょうか。もし、兄弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食へ物にも

さて、冒頭の聖書箇所は、キリスト教の知識や慈愛園の理念を頭で分かっているだけでは、実践に生かすことができません。何の意味もないことを強烈に示唆する御言葉です。

最後に、慈愛園が大切にしてきた。パウラス先生の言葉として「散らされた人々を集め、一人も失われ

ないようにする」というものがあります。これは人と人とのつながりが希薄化し、孤立が深刻化している現代においても、見失ってはならない普遍的な実践理念です。この理念を胸に

私自身も慈愛園の職員として、祈りと神様の導きにより仕事に従事していく思いです。神様の愛が皆さまと共にありますように。

改 宣 教 室

小泉基

(日本福音ルーテル 札幌教会校師・宣教室長)

山田征郎さん (日本福音ルーテル 浜名教会信徒)

小泉 今日、能登の輪島市町野町のもとやスーパーにあるボランティアセンター、もとやベースにお邪魔していますが、能登の復興にはまだまだ時間がかかりそうですね。山田さんはいつからここに居られるのですか？

山田 はい、ここで生活するようになったのは能登地震から1年後の今年の1月からです。昨年12月にテレビでもとやスーパーの被災の様子や、そこから立ち上がるようにしておられる本谷社長の話を聞いて、行くしかないと思っただけです。本谷社長に電話をかけ、長期ボランティアとして受け入れてもらい、その結果ボランティアセンターの管理人のような仕事を任されることになりました。多いときは60人くらい泊まることもありま



山田征郎氏撮影

すが、今は平日は2〜3人、土日は10人前後が宿泊して、ボランティアをしたり、被災地を学びに来たりしておられますね。

小泉 これまでも災害ボランティアの経験があまりなかったのですか。

山田 友人に誘われて2004年の中越地震のボランティアに入ったのが最初でした。もともと街の電気屋さんだったので、10年程前に引退したこともあり、被災地でお役に立てることがあるかもしれないと考えたのです。その後、東日本大震災、房総半島台風、長野水害などでもボランティアとして現地に入りました。

小泉 あちこちでボランティアをしてこられたのですね。町野町では、相当長期のボランティアになつていますが、被災地ボランティアの喜びを教えてください。

山田 全国からやって来るボランティアさんたちとのつながりを感じられることだと思います。

山田 小学校の時の同級生に牧師の子が居て、一緒に教会学校へ行くようになり、高校生の時にその教会で受洗したのです。結婚した後、静岡県に住むことになって日本福音ルーテル浜名教会に転会しました。教会学校で暗唱したヨハネによる福音書10章11節の「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」は、今も心に残っています。

れることです。被災して困っている人を助ける、と

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.
日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師
世界宣教主事

創造の時節

毎年9月1日〜10月4日は創造の時節(Season of Creation)です。地球の保全を覚えて取り組むために祈り、礼拝する時としてエキメニカルな働きとして設けられました。今年の初日には世界ルーテル連盟(LWF)副議長た

ちが世界の教会リーダーとともに礼拝に加わり、この時節を守りました。創造の時節は、さまざまな伝統をもったキリスト教徒が各大陸から集まりひとつとなつて、神の創造を覚えて礼拝する時です。今年のテーマ「創造の平和」の主旨は、生態系の正義をキリスト教信仰の立場から求めるという緊急の呼び掛けでした。

開会礼拝でブラジルのルーテル教会副議長グナス牧師が聖書朗読すると、異なる教派や地域の参加者たちの声が一つになりました。コロンビアのミランダ監督が地元の東アンティオキアの山岳地帯からメッセージを届けました。イザヤ書32章14節〜18節を引用し、暴力と環境劣化が先住民地域に及ぼす影響と、教会が「いのちのコミュニティー」という方策を打ち立てて問題に取り組んでいることを分かち合いました。「イザヤの幻は、私たちが教会として人類と神の創造の平和を求めていく努力を育んでくれます。」

LWF事務局長のブルクハルト牧師は、ルーテル教会が創造の保全に力を尽くしていくことを表明し、「直ちに行動を、この呼び掛けに込めていくには信仰を柱とする他ありません。創造の時節は力と連帯の源です」と述べました。ルーテル教会にとつて創造の時節は、気候正義にコミットしていく思いを新たに、気候変動の影響を最も受けやすい人々の保護を呼びかける機会でもあります。この呼び掛けに込めて取り組みに参加する教会が増えることを願っています。

LWFはこの時節を覚えて礼拝のための式文と実践アイデア集「セレブレーション・ガイド」を英語とドイツ語で用意しています。LWFのウェブサイトからダウンロードできます。これはLWFのほかにWCC、ラウダート・シ運動、アングリカン環境ネットワーク、世界改革派共同体、ACTアライアンスといった国際的なエキメニカル団体の協力のもと作成されました。

TNG委員会ユース部門主催・社会委員会共催「リーダー研修キャンプ報告」

多田哲

日本福音ルーテル合衆教会・水俣教会牧師
TNG委員会ユース部門長

9月1日(月)〜4日(木)の4日間、沖縄にてTNGユース部門・社会委員会共催のリーダー研修キャンプが行われました。青年4人、TNGスタッフ2人の計6人と、社会委員会からの3人を加えて全部で9人の参加でした。初日は日本基督教団のわんせミニナーハウスのガイドの方の案内で、南部の糸満市にある第一外科壕跡、ひめゆりの塔と資料館、平和の礎を訪ね、ひめゆり学徒隊の方々の実

際の証言を記録した映像が本場に訴えかけるものがあります。夕方には普天間基地のゲート前に移動し、毎週ゴスペルを歌って抗議する集会に参加。そこで歌った聖公会聖歌423番『沖縄の礎』が心に響きました。この集会は最後に「もしも来週またここに基地があつたら集まりましょう」と締めくくります。基地問題は決して変えられない現実ではないという希望を感じました。

2日目は北上し、名護市辺野古にある米軍の新基地建設現場で毎日さまざまな座り込みの抗議運動に参加しました。その後、フェリーに乗って伊江島に渡り、阿波根昌鴻さんのヌチドウタカラの家があるわびあいの里を訪ね、ご自身も沖縄戦を体験された代表理事の謝花悦子さんから平和のために学び続けてほしいというメッセージを今年も受け取りました。それから団結道場公益質屋跡米軍飛行場を見学。

3日目は、読谷村にあるチビチリガマとシムクガマを訪ねました。この二つのガマは至近距離にありながら全く異なる道を辿りました。両方のガマに住民が避難していましたが、チビチリガマには中国大陸から帰ってきた人がおり、日本軍が現地住民に行つた残虐行為を見てい

たので、敵軍に捕まつたら何をされるか分からないと言つて全員自決に至りました。シムクガマにはハワイから帰ってきた人がおり、英語を話すことができませんでした。それで米軍と英語で意思疎通し、全員投降して生き残りしました。その後、嘉手納基地を望む道の駅かたなを訪問。嘉手納町は町域の82%が米軍基地です。日本の国土面積の0.6%しかない沖縄県に全国の米軍基地の70%が集中しています。この日も戦闘機や空中給油機、輸送機などがひっきりなしに離着陸を行いました。大きな騒音が鳴り響いていました。その後、わんせミニナーハウスに戻り、高里鈴代さん(基地・軍隊を許さない行動する女た

第37回教会音楽祭メロデー公募のお知らせ

秋吉亮
日本福音ルーテル
日吉教会(信徒)

作品は、当日賛美します。詳しくは左記の通りです。

第37回教会音楽祭を開催することになりました。ぜひご予定くださり、ご参加下さい。

今回のテーマは「あらゆる民は叫ぶ」救いは神と小羊に【ヨハネ黙示録7章9、10節から】です。この聖句による新しい二つの歌詞(平良愛香師作詞、峯野慈朗師作詞)に付けるメロデーを公募します。出来上がった

日時 2026年7月4日(土)午後1時30分
場所 国際基督教大学(ICU)礼拝堂

メロデーの応募要件は次の通り
1 どなたでも応募できます。
2 応募はそれぞれの歌

- 詞につき、1人1作品までとします。
- 歌詞の変更、省略、繰り返しはしないでください。
- メロデー譜(伴奏かコードネームをつけてもよい)あるいは合唱譜で応募してください。
- 採用にあたり、作者と相談の上、教会音楽祭実行委員会が補作する場合があります。
- 応募作品の著作権は作者者に帰属するものとします。
- 次の事項を記して、楽譜とともに郵送してください。
- 【氏名(よみがな)、住所、電話番号、メールアドレス、あれば所属教派名・教会名も】
- 締め切りは2025年12月31日(水)(消印有効)です。
- 審査結果は、2026年3月中旬にホームページで発表します。
- 送り先 〒116-0003 東京都荒川区南千住5-21-16 日本聖公会千住基督教会 教会音楽祭実行委員会 公募係



平和の礎(摩文仁)での集合写真



辺野古基地建設現場搬入口での抗議行動の様子

歌詞の詳細は教会音楽祭ホームページ
<https://cnf.hoi>
をご覧ください。



第15回「るるるるる」法人会連合総会報告

竹田大地

(日本福音ルーテル天王
寺教会牧師・広報室長)

8月26日〜27日の2日
間にかけて、東京都三鷹
市のルーテル学院大学を
会場に第15回「るるるるる」法
人会連合総会が開催さ
れ、74人が集った。

総会と併せて、研修と
して「ルーテルとして何を
大切にして、何をしていく
のか」を主題に、石居基夫
牧師(ルーテル学院大学
学長)によつて、教会、法
人の歴史を振り返りつ
つ、また「るるるるる」法人会
連合設立の理念を踏まえ
ながら、2日間にかけて
講演が行われた。

1日目は、主題の「ルー
テルとして何を大切にし
てきたか」を中心に取り
上げられ、その後参加者
がグループに分かれて、グ
ループワークを行った。教
会、社会福祉法人、学校
法人、幼稚園、保育園から
の参加者が含まれるグ
ループで、それぞれの参加
者が関係する施設・所属
する教会において大切に
してきたことを振り返り
ながら、「るるるるる」法人会
連合として何を大切に
してきたかを共に考える機
会を持った。法人を越え
て交わりの時となり、そ
れぞれのグループでは活発

な分かち合いが行われた。
続いて、パネルディスカッ
ションが行われ、小泉基牧
師(札幌教会牧師・宣教
室長)がファシリテーター
となり、教会から橘智氏
(東京教会代議員・日本
福音ルーテル教会会計・
東教区財務部長)、ルーテ
ル学校法人会から大柴讓
治牧師(大阪教会牧師・
ルーテル学院大学理事
長・ルーテル学校法人会
会長)、ルーテル社会福祉
協会から潮谷佳男氏(神
水教会信徒・社会福祉法
人慈愛園慈愛園子供
ホーム・慈愛園乳児ホ
ム施設長・ルーテル社会
福祉協会会長)、ルーテル
幼稚園保育園連合会か
ら竹田拓己氏(大森教会
代議員・大森ルーテル幼
稚園園長補佐兼事務長・
ルーテル幼稚園保育園連
合会会長)が登場し、そ
れぞれの立場から主題につ
いて、現場の声を踏まえて
発題が行なわれた。1日
目の終わりには、懇親会
がルーテル学院大学のラ
ウンジで開かれ、さらに交
わりを深める時を持った。

2日目は、主題の後半
部分「何をしていくのか」
について、石居基夫牧師か
らの講演が行われた。これ
を受けて、再度1日目と
同じグループに分かれて
るるるるる」法人会連合が

「何をしていくのか」を共
に考え、分かち合う時を
持った。

最後に総会が行われ、
総会開催時期の調整につ
いて協議し、2年連続では
あるが来年も総会を開催
することが承認された。

また、高橋睦氏(東京教会
信徒・社会福祉法人東京
老人ホーム常務理事)・石
倉智史氏(西日本福音
ルーテル西明石教会信
徒・社会福祉法人「るる
る」ホーム常任理事)から
「今後のるるるるる」法人会
連合の役割について」の提
言がなされ、これを踏ま
えて「るるるるる」法人会連合
に「将来検討委員会」を設
置することが承認され、
次回総会への提案を検討
することを確認した。
多くの参加者より「参
加してよかった」との声が
寄せられ、ルーテル教会に
連なるそれぞれの教会・社
会福祉法人・学校法人・幼
稚園・保育園が一体となつ



パネルディスカッションの様子。
左から小泉牧師、竹田氏、
大柴牧師、潮谷氏、橘氏

ルーテル社会福祉協会 2025年総会研修報告

潮谷佳男

(日本福音ルーテル
神水教会信徒・ルーテル
社会福祉協会会長)

今回の総会では、佐々
木炎先生(日本聖契キリ
スト教団中原キリスト教
会牧師・NPO法人ホッ
トリースペース中原代表)に
よる「法人と地域と教
会」を主題とした講演
と、2日目にはベタニヤ
ホームによる「フードパ
ントリーと地域との関わ
り、今後について」の研修
が行われました。

私は前年度のるるるるる
る」法人会連合会の研修
でも佐々木先生のお話を
伺いましたが、その時は
「自分たちの目的に価値
を付加する」という視点
を学び、今回はさらに「目
的そのものあり方」に
気づきをいただきました
(あくまで私見ですが)。
本協会では前年度に
「日常の法人・非日常の
法人が地域にできるこ
と」をテーマに、法人の地
域貢献について研修しま
した。2年にわたり「福祉
法人と地域」を取り上げ

てきましたが、キリスト
教社会福祉を担う私た
ちにとって、常に「何がキ
リスト教的であるのか」
を考えることが求められ
ています。
今回の研修で改めて心
に残ったのは、私たちの
行っていることは「神が
求めるサービス」でなく
ればならない、という点で
す。措置費でカバーでき
るサービスや、国や自治
体が提供するサービスに
とどまらず、それを越え
る働きが必要だというこ
とです。これは歴史が物
語っていることであり、私
たちの法人(団体)が国の
援助がない時代から活動

を続けてきたことの証で
もありません。先人たちが
困窮する人々に差し伸べ
続けた手は、単なる人道
的支援を越えた、まさに
「ミッション」であったと言
えるでしょう。
現場ではクリスチャン
の働き手が少なくなつて
いるところもあります
が、この歴史を知ること
で、使命を継続する大切
さに気づかされるのでは
ないかと思えます。
さて、2年間続けてき
た「福祉法人と地域」の
研修は、ひとまず一区切
りとなります。近年の
ルーテル社会福祉協会の
研修は、毎回50名以上が



懇親会での様子

て福音宣教に励んでいく
思いを共有する機会と
なつた。石居基夫牧師によ
る主題講演については、後
日「るるるるる」法人会連合内
で共有される予定。



主題講演をされる石居学長

聖書日課 購読のお勧め

「聖書日課」は年4回(1月・4月・7
月・10月)刊行されており、1月号
からご入会いただく「年間会員」
の場合、年4冊で1,800円です。
年度の途中からご入会される場
合は、1冊500円での購読となり
ます。

お申込みは、聖書日課担当の方
にお申し出ください。また、WEB会
員は年会費1,200円でご利用い
ただけます。WEBサイトからお申
込みください。WEBサイトは二次
元コードを読み取ってアクセスし
てください。
皆さまのお申込みを、心よりお待ち
しております。

ルーテル聖書日課を読む会事務局
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
日本福音ルーテル教会事務局内
TEL:03-3260-8631 FAX:03-3260-8641
E-mail:seishonikka@jelc.or.jp

